



川に見る・日本の四季①⑥ 中国地方の川の「冬」を追う

澄明な冷気に映える、青と白のコントラスト。

岡山市から国道53号をひたすら北上する。津山市で国道179号に入り、なおも北上する。吉井川の上流へ、行けるところまで行ってみようと思ったのだ。

吉井川は、岡山と鳥取の県境、中国山地の三国山(標高1,252m)に源を発し、津山盆地や吉備高原を経て岡山平野を流れ、児島湾に注ぐ延長約133kmの大河である。

津山盆地は高気圧に覆われて穏やかな冬景色だったが、中国山地に入ると表情はがらりと変わり、見るものすべてが白一色に

なった。奥津温泉を通過する。奥津温泉といえば、“足踏み洗濯”が有名だ。かつて熊や狼を見張りながら、川に湧き出る湯で洗濯していた名残だとか。今は冬期を除き、観光用に実演が行なわれているという。

山奥に入るにつれて雪はどんどん深くなり、源流にはまだまだだが車を降りた。よく晴れていて、景色は明るい。真っ青な空と雪の白さのコントラストが鮮やかに目を射る。

全身を包む冷気の中でシャッターを押した。

(上) 鳥取県米子市から日野川の上流へ。伯耆町でワカン(輪かんじき)を履き、雪に埋まりながら川原に下り、吹雪が止むのを待った。早朝の空がほんのり赤くなった。

(下) 伯耆町から岡山県に入り、名前のとおりカーブの多い四十曲峠を経て新庄村へ。お目当ての新庄川(旭川水系)は雪に埋もれていたが、その流れは力強かった。